

もり おか 本土の丘だより

福岡県立精神医療センター 太宰府病院情報誌 Vol. 27



目次

ごあいさつ	・・・P 2
Dr.ボイス	・・・P 3
創立90周年事業	・・・P 4
おしえて☺コーナー	・・・P 5
作業療法室から	・・・P 6
スタッフリレー	
デイホスピタルから	・・・P 7
編集後記	
外来受診案内	・・・P 8
交通アクセス	

【基本理念】

患者さんのために 患者さんとともに

【基本方針】

1. 患者さんや家族が安心して利用できる安全な病院を目指します。
2. 人権を尊重した良質な医療を提供します。
3. 高度で専門的な医療の提供と救急・急性期医療の充実に努めます。
4. 地域社会で安心して生活できるように支援します。
5. 効率的な運営を行ない働きがいのある職場環境作りを推進します。



福岡県立精神医療センター 太宰府病院

指定管理者 一般財団法人 医療・介護・教育研究財団



日本医療機能評価機構
認定第 JC1765 号

ごあいさつ（巻頭言）



福岡県立精神医療センター太宰府病院
看護部長 皆越 美香

本年最初の杜の丘だよりとなります、改めまして明けましておめでとうございます。

昨年の4月より看護部長に就任しました皆越美香です。

前任の伊東部長から受け継いだ看護部を、さらに発展出来るよう努力していきたいと思います。
どうぞよろしくお願い致します。

また当院は、昨年創立90周年記念行事を終えることができました。

コロナ禍での式典でしたので、80周年記念式典よりも縮小した形でしたが、記念講演会は、作家で医師でもある帚木蓬生先生を講師としてお招きし、ハイブリッド形式で開催され大変好評でした。

太宰府病院は、1931年に精神科専門病院「筑紫保養院」として、ここ太宰府の地に設置されました。2005年には公設民営化となりましたが、この地域の精神医療を長きにわたって担うことができました。今後もこれまで当院に関わって下さった多くの方々に感謝し、当院の理念「患者さんのために、患者さんとともに」のもと、100周年を目指し皆さんと一緒に歩んで行きたいと思っています。

さて、今年で3度目のコロナ禍のお正月を迎えることとなりました。

現在第8波真っ只中とはいえ昨年や一昨年と違い、行動制限もなく、感染者の多くが軽症であるため、世の中も気が緩んできているように感じます。政府も積極的に経済活動を後押ししており、入国制限の緩和や円安で、街ではマスクをしてない外国人の観光客の姿も多く見るようになりました。しかし今年の冬は、インフルエンザも流行しており、まだまだ油断できない感じがします。

春には「5類」への引き下げを考えているようですが、とにかく医療体制が困らないように適切な判断をしてほしいものです。

医療従事者としては、感染対策への心構えをしっかりと持ち続ける必要があると思います。当院も第8波では、改めてCOVID-19の感染力の強さを実感し、一連のコロナ対応に苦慮しましたが、職員一同一丸となって協力し取り組んできました。この貴重な経験は、職員を成長させこれから担うべき太宰府病院の医療の糧になったと確信しております。

最後になりましたが、今年こそはコロナとうまく共存でき、またすべての皆様にとって、幸せな良い1年になることを心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



四季と精神疾患の関連について

精神科医師 牧 亨

皆さま こんにちは。2021年度より勤務しています精神科医の牧です。

今回は四季（春夏秋冬）と精神疾患の関連についてお話ししたいと思います。

「桜満開の春」、「夏の甲子園」、「食欲の秋」、「冬の国体」など、わが国でも四季に呼応した熟語が多いようですね。まさに四季は日本の文化を構築している大きな特徴と言えると思います。皆様の記憶の中にも、思い出とともにその当時の季節が刻まれているのではないのでしょうか。私の場合、暑くなると強い日差しの中で白球を追いかけた学生時代の記憶がよみがえり、毎年気温が下がってくると苦しんだ受験のシーズンを思い出します。私たちが何気なく過ごしている日常も季節に影響されていることが多いのでしょね。

さて、患者さまの中には季節によって精神状態の変化を自覚される方がいらっしゃるのではないのでしょうか。まだまだ解明されていないことも多いのですが、それを裏付けるデータもいくつか存在するようです。

私の場合、診療の場で「季節性の不調」を相談された際には、「次の季節には改善する見込みがあるので、悲観されないようにしてください。」とお伝えすることが多いです。最初は当然不安が強いとは思いますが、何年（或いは何度）か繰り返すうちに、「前回のように（時間が経てば）治るはずだ。今回も乗り越えられるはずだ。」と前向きに考えられるようになると思います。もちろん状態に応じた薬剤調整も必要ですが、このように季節に焦点を当てた考え方を身につけると、病気に向き合う力が生まれ、薬ばかりに頼らない生活を送れるのではないかと私は考えています。

最後に個人的な話になりますが、野球の世界大会（WBC）が開催される今年の春は特別に記憶に刻まれる季節になりそうです。「季節性の寝不足」にならないように私も気を付けるつもりです（笑）。長引くコロナ禍の生活に億劫になることも多いとは思いますが、皆様の健康と共に、侍JAPANの活躍を祈っております。



太宰府病院 創立90周年記念事業 関連特集

創立90周年記念事業に携わらせていただいて 一温故知新一

リハビリテーション科 副技師長 若松 伸宏

コロナ禍で延期されていた創立90周年記念事業が無事に開催できたことに実行委員の一人として感謝申し上げます。

90年の歴史に触れ、その重みを感じる機会となりました。中でも当院の作業療法は全国に先駆けて実践されていたことはあまり知られていないかもしれません。この機会に少し当院の作業療法の歴史について紹介させていただきます。

当院の作業療法は昭和15年（1940年）に第2代院長の岩田太郎先生により開始されました。岩田先生は着任してすぐに患者の全身健康状態がひどく低劣な状態にあるのを見て直ちに健康調査を行い、閉鎖的な生活とそれに伴う運動不足の解消として農作業を中心とした作業療法を始めました。当時の職業は農家が中心であり、自給自足していた時代です。農作業を作業療法の中心としたのは、農作業こそ人が生きていく上で最も根源的な活動であり、それを通して患者の人格の根底から賦活していくことができると考えていたからです。後々には地域の農家へ手伝いに行ける患者もいて、地域に根差した病院作りと作業療法による職業リハビリテーションが当時から実践されていました。40年ほど前まで現在の五条駅周辺から日本経済大学まで当院の田畑や茶畑、牛・豚・鶏舎などがあったそうです。

また、記念事業で特別講演をしてくださった帚木蓬生先生の小説「閉鎖病棟」は当院がモデルとされていますが、作中にも作業療法の場面がたくさん出てきます。昭和後期には当院の平均在院日数が全国ワースト1位になったことがあります。当時の作業療法士が率先して退院促進プログラムを立案・運営し、現在のデイホスピタルを開設するきっかけを作ったそうです。

当院の作業療法は岩田先生から始まり、多くの先輩方が築き上げてきた歴史と功績があります。それに恥じない作業療法であり続けることが私たちの使命の一つであると感じ、まさに温故知新を肌で感じる機会となりました。

立花洋一さん ジャズコンサート

開演前1時間ごろ、ピアニストの立花さんと小嶋院長が熱心に話されている様子がありました。何を話されているのかというと…

実は、今回のコンサートで立花さんの演奏をBGMに太宰府病院開設からの写真をプロジェクターに映し出すという演出。立花さんは病院のイメージを曲に乗せてお届けしたいということで、イメージづくりをされていたのでした。

（太宰府病院の歴史や病院のイメージを小嶋院長に聴取する立花氏）



昭和6年に始まった90年の歴史をつづった太宰府病院の写真のスライドショーと共に立花さんの優しい音色が会場の観客のみなさんを優しく包み込みました。順風満帆ではなかったであろう、この90年の時の流れをゆっくりと締めくくっていただきました。

立花洋一さん 素敵な演奏、ありがとうございました。観客の皆さんも、緩やかないい時間でしたと仰っていました。

（創立90周年記念コンサート）

当院では、「すずらんグループ」と称して、うつ病や双極性障害の方々を対象とした気分障害についての心理教育（勉強会）を実施しています。

このグループでは、疾患の理解や治療、薬や副作用、再発予防について…など、正しい知識を持つという事を一つの目標として取り組んでいます。また、病気と上手に付き合っていくための工夫や方法を、同じ悩みを持つメンバーさんと話し合いながら学んでいきます。

《グループ構成》 2～4名程度

医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士等の多職種スタッフが一緒に参加し、サポートしていきます。

《日程》 水曜日14:00～15:00

《内容》 1クール4回

（短縮される場合もあります）

- ① 病気・症状の振り返り
- ② 治療・心理的治療について
- ③ ストレスとの付き合い方
- ④ 社会資源・今後の生活で気を付ける事

※1クール制のため、未実施期間もあります。
詳細は、リハビリテーション科にご相談ください。



～部署紹介～ 訪問看護



太宰府病院訪問看護について紹介させていただきます。

訪問看護とは、外来通院されている方が、地域で安心して治療を継続しながら快適な生活を送ることができるように、看護師・精神保健福祉士・作業療法士などがお住まいに伺い日常生活への支援などを行うことです。患者様やご家族の抱える生活への不安・悩みなどの問題を共に考え、通院治療を続けていくことができるような支援を行います。

支援内容としては、生活面では、睡眠や食事、入浴などその人らしい健康的な生活が送れるように援助します。

医療の面では、患者様と相談しながら内服管理を行い、訪問時には適切に内服ができているかを確認します。また病状変化時の対応を確認します。

その他にも、地域の様々な施設や制度の利用を紹介して生活範囲が拡大するような援助を行います。また、ご家族の方とも話し合い病気に対する知識や対処方法などを一緒に考えます。当院の訪問看護の特徴として、主治医や多職種と速やかに連携をとるのが大きな特徴です。必要に応じた速やかなサポート体制が整っています。夜間は訪問看護を行っておりませんが、病院に当直看護師が常駐しているため夜間の相談も可能です。

訪問看護利用をご希望の際は、主治医もしくは外来のスタッフにお伝え下さい。訪問看護師が詳しいご案内をいたします。少しでも皆様のお役に立てるように援助を行っていきたいと考えていますのでよろしくお願い致します。



作業療法室から ～ 秋の運動会2022 と クリスマス会 ～



皆さんお元気でしょうか。作業療法室からは、昨年末に開催された「秋の運動会2022」のご紹介です。

今回は「運動と協力」を2大テーマとし、コロナ禍により外出制限や運動の機会が減っている中で患者さんに身体を動かす楽しさを知っていただき、運動への興味や意欲を高める目的で開催されました。また、他病棟や他部署との連携も減る中、患者さん同士やスタッフが協力してイベントを作る事で交流の大切さを知ってもらう事も、実行委員の思いとしてありました。

種目は、「ストラックポン!玉入れ」「はしれ!メロス」「急げ!太宰府宅急便」「ダンスコンテスト」といったアイデア満載の、運動に特化した内容となりました。例年の文化祭とは異なるテーマであったため、当日まで患者さんやスタッフの中に戸惑いや不安がありましたが、いざ始まってみると参加者の中には日頃見たことの無いような笑顔や、はつらつとした様子の方が多く見られました。また、患者さんからは、「久しぶりに運動して楽しかった」「運動不足だったけど、楽しめた」等、たくさんの反響がありました。



例年、多くの方々のご協力を頂きながら寄ってん祭を実施していますが、今年は入院患者さんとデイホスピタルのご利用者さんが参加されました。スタッフ一同、地域の皆さんと連携した寄ってん祭が開催出来る日を心待ちにしています☆

続きまして、同じく昨年末に行われましたクリスマス会のご紹介です。コロナ禍で様々な作業療法活動が自粛される中、病棟にて感染対策を万全に実施しました。

当日は、クリスマスにまつわるワードを使ったビンゴゲームや、スタッフから患者さんへクリスマスプレゼントをお渡しする等、盛大に盛り上がりました。クリスマス会に参加した患者さんからは、満面の笑みで「一生の思い出になります」といった感想を頂きました。スタッフと患者さんの距離が近まる温かいイベントとなりました。また、患者さん同士の交流も見られ、1年を締めくくるとても楽しく素敵なイベントとなりました。

昨年は、コロナ禍により活動制限や自粛といった状況が多い中で、患者さんとスタッフが連携してイベントを達成させる大切さを改めて感じました。また、多くの方に支えて頂きながらイベントを開催出来た事にスタッフ一同感謝しています。

😊 スタッフリレー 😊



看護師 田代 洋平



はじめまして。A1病棟看護師の田代洋平と申します。太宰府病院に入職して3年目になります。患者さんへの接し方や日々の業務で迷う事もありますが、病棟スタッフの方々に支えてもらいながら日々働かせていただいています。

休日は、季節を問わず野池に魚釣りに出かけることが多いです。たとえ魚が釣れても池に返してしまうので、家族からはいつも「せめて食べられるお魚を釣って来て」と言われています。今年の目標は、家族に白い目で見られないように、海釣りに挑戦して、お刺身に出来るようなお魚さんを家に持ち帰ることです。

これからも「患者さんのために、患者さんと共に」を実践できるような看護師を目標に努力していきますので、よろしくお願いします。

次回のスタッフリレーはC2病棟看護師の松原涼馬さんにバトンをお渡しします。

デイホスピタルから ～活動紹介:セルフケア講座～



今回はデイホスピタルのプログラム、セルフケア講座のご紹介です。

セルフケアって何でしょう？ このプログラムでは、セルフケアについて「自分のために自分でできることを学び、実践すること」と定義しています。

講義を聴くだけではなく、参加する人の経験や今現在の悩みを共有しながら、実生活に役立つ情報について学びます。全10回のプログラムですが、数回の参加や当日の参加も可能ですので、気負わず気軽に参加できるのも特徴の一つです。「眠りが浅くて悩んでいて」「ストレスに強くなりたい」など、個人の興味関心に合わせて参加する方も多くいらっしゃいます。

また、各回担当のスタッフが講座テキストを作成していますので、まさに当院デイホスピタル・オリジナルの内容となっています。今年も内容を検討しながら開講しますので、内容や回数が変更になる場合もあります。プログラムの開講が決まりましたら、外来を中心にポスターでお知らせします。

※興味がある方、参加を希望される方は、主治医や外来スタッフ、デイホスピタルまでお問い合わせください♪

【セルフケア講座内容】※全10回 水曜日(隔週) ※下記は2022年度のプログラム内容です。

- ①セルフケアについて: 落ち着ける/繋がる
- ②不安との付き合い方
- ③ストレスに対処する
- ④アサーション[自己表現スキル]
- ⑤体験をシェアしよう
- ⑥睡眠について
- ⑦リカバリー:
自分が大切にしたいことについて考える
- ⑧食から考えるセルフケア
- ⑨身体のセルフケア
- ⑩心・食・動: リカバリーとレジリエンス[精神的な回復力と環境への適応力]



編集後記



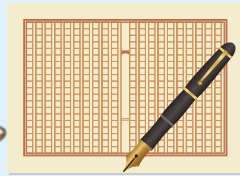
少しずつ春が近づいてまいりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

広報誌「杜の丘だより」を再開して2度目の発刊となります。原稿の執筆を快く引き受けてくださった方々には、この場を借りて感謝申し上げます。

当院は創立90周年を迎えました。私自身も改めて「患者さんのために 患者さんとともに」の理念を再確認し、引き続き患者さんやご家族の支援に励みたいと思っております。

これからも皆さまのお役に立てるような情報を発信していけたらと思いますので、また「杜の丘だより」をお手に取って頂けると幸いです。

精神保健福祉士 中野 早紀子



～ 受付時間 ～

●平日

新患 8:25 ～ 11:00 13:00 ～ 14:00
新患の場合、事前に予約が必要となっております。

再来 8:25 ～ 11:30 13:00 ～ 15:00

デイホスピタル

8:30 ～ 9:30 13:00 ～ 13:30

※診療科により、診察日及び時間が異なる場合があります。
お問い合わせください。

●土曜日

再来 8:25 ～ 11:30

～ 診察時間 ～

●平日 8:30 ～ 12:00 13:00 ～ 17:00

●土曜日 8:30 ～ 12:00

患者さんの権利と責任

- 一 患者さんは常に個人としての尊厳を守られる権利があります。
- 二 患者さんは適正で良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 三 患者さんは自分が受ける治療や検査の内容について、正確で分かり易い説明や必要な情報を求める権利があります。
- 四 患者さんは十分な説明を受けた後、自己の自由な意思に基づいて医療を受け、または、拒否する権利があります。
- 五 患者さんは医療のどの段階においても、別の医師の意見を求める権利があります。
- 六 患者さんは診療上の個人情報保護される権利があります。
- 七 患者さんは病院の医療行為について、適切な医療を受けられるようにするため、協力する責務があります。

【医師担当表】 2023年1月1日現在

	精 神 科 外 来		内科外来	歯科外来	
	新 患	再 来	午前	午前	午後
月	瀬戸・土本・古野	小嶋・平河・大石	-	-	-
火	平河・牧・大石	重松・瀬戸・佐々木	-	-	-
水	小嶋・佐々木・武井	川島・酒井	上原	染矢	-
木	重松・川島・山田	佐藤・土本・尾久・古野	-	-	-
金	佐藤・尾久・酒井	山田・牧・武井	九大医師	橘	-
土	-	外来担当医	-	-	-

Access Map



【電車】

西鉄五条駅 徒歩 5分

【車】

福岡方面からは、君畑交差点を左折、五条駅入口を右折

久留米方面からは、君畑交差点を右折、五条駅入口を右折



福岡県立精神医療センター 太宰府病院

〒818-0125 福岡県太宰府市五条三丁目8-1

TEL 092-922-3137(代表) FAX 092-924-4060

URL <http://www.dazaifu-hsp.jp> E-mail info@dazaifu-hsp.jp